

活動報告書

報告者氏名：當間豊、幸地英之 所属：沖縄県立桜野特別支援学校 記録日：平成 25 年 12 月 20 日

【対象児の情報】

○学年

中学部 3 年・男子（1 名）

○障害名 脳性まひ（下肢まひ及び上気孔部まひによりカニューレ挿管）

○障害と困難の内容

- ・脳性まひによる下肢まひがあるため移動には車いす利用。
- ・手指の細やかな動きが難しいため、板書した文字をノートに書き写すことに時間がかかり、ノートに書いた文字を読み返すことが難しい。

【活動の目的】

○当初のねらい

- ①板書に係る時間を軽減し、学習に集中できるようにする。
- ②記録した内容を踏まえて、自分の考えを相手に伝えることができるようにする。

○実施者

當間豊（沖縄県立桜野特別支援学校教諭）、幸地英之（沖縄県立桜野特別支援学校教頭）

○実施期間 平成 25 年 5 月 20 日～平成 25 年 12 月 25 日

○実施者と対象児の関係

教科担当（国語）

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・文章を書くことに時間がかかるために、学習内容を深めることが難しい。
- ・書いた文字が読みづらく、ノートを見返しても、学習内容が断片的なことになることがある。
- ・自分の考えをまとめ、発表したり、作文にしたりすることが難しい。

○活動の具体的内容

- ① 記録することと自分の気持ちを簡単にまとめ、表出する。
- ② まとめ表出した文章をまとめ、推敲し、体裁を整える。
- ③ 自分の考えをまとめ、相手に伝える。

○対象児の事後の変化

- ① 自分の気持ちを簡単にまとめる (Twitter の利用)
 - ・ 1 つの文章に 1 つの感想とし、簡潔にまとめる練習を行った (図 1)。
 - ・ 夏季休業期間でも記録した内容を、すぐに確認することができた。
 - ・ 記録した場面について、読み返すことで、このままでは感想文を書くことが難しいと気づくことができた。



図 1 Twitter の利用

②-1 文章をまとめ推敲する

- ・ツイートした内容を取捨選択しながら整理し、自分の感想としてまとめることができた（図2）。

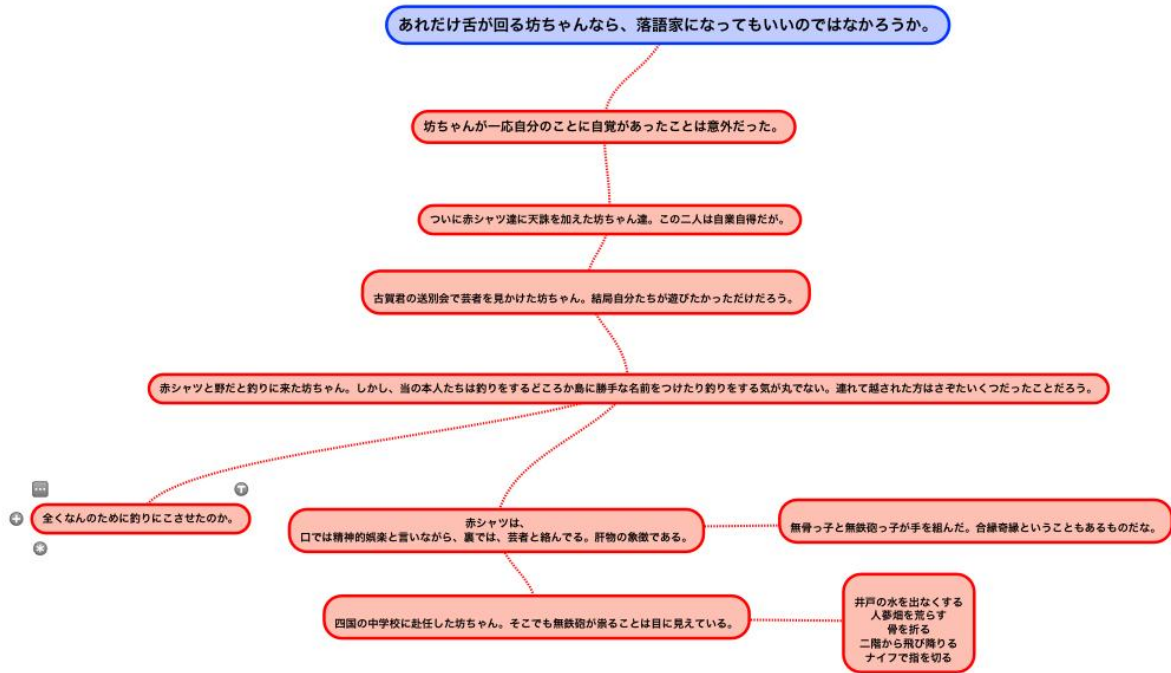


図2 マインドマップで考えた最初の構成

- ・感想がまとまりにくいことに気づくと、マインドマップを複数に分け、構造化し、細分化して整理することができた（図3）。
- ・細分化した内容をそのまま段落として利用することができた。
- ・細分化した内容を読み返して、内容が重なっていないかを自ら考えて確認することができた。



図3 場面毎で構造化

↓
細分化

- ・細分化することで、自分の考えを解りやすく、より深めて表現することができた（図4）。
- ・細分化をしたマップを見ながら、感想を加えたり、別の分けたところに繋げ直したりしながら、内容を深めることができた。
- ・分けたマップを見直し、最終確認をして作文にどう書いたら良いかや表現が正しいかを確認することができた。

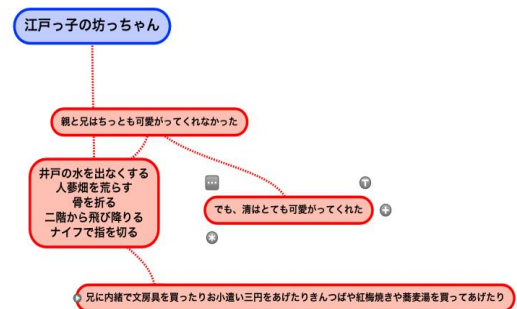


図4 細分化したマップ

②-2 体裁を整える。(原稿用紙の利用)

- ・ 作文の体裁を整えながら、シンプルマインドでまとめた内容をコピーアンドペーストで書くことができた (図5)。
- ・ ただ貼り付けるのではなく、内容の繋がりが悪い場合は、空欄にして言葉を付け加えることができた。
- ・ 自ら進んで全文を読み返しながら推敲して、作文を最後まで仕上げることができた。
- ・ 仕上げた作文を原稿用紙に書き写すことができた。



図5 体裁を整える

③ 日記アプリを使って、自分の関心のある物事を記録して、教師や友達に伝える練習を行う。(DayOne)

- ・ テレビの画面を写して、面白かった場面を記録し、自分のコメントを付けて他者に伝えることができた (図6)。
- ・ 写真や記録を手がかりにしながら、相手に自分の気持ちを伝えることができた。
- ・ 相手により伝わるようにしたいと考え、日記のソフトで、写真も併せて伝えるようになった。



図6 自分の考えをまとめた日記

【報告者の気づきとエビデンス】

○報告者の気づき

1 ノートを書く時間が短縮することで、学習内容の定着の向上を図ることができた。

板書したことを集中して見て、書くことで、ノートを取るという達成感を得ていた。板書を書き写したことで、学習したと思っている様子もあったが、書くことを「iPad」で補うことで、書いた内容にも意識を持ち始め、学習内容の理解に繋がった。さらに記録したことを自分なりに整理を行うことで、授業の理解に加え、自分の考えの発表や質問する力に繋がり、それを自分の意見として感想文に書くことができた。

2 授業の記録を取り、見返し、整理をすることで、授業内容の理解に繋がった。

学習の記録を取ることで、取った記録の中から教材の内容や登場人物の関係性を整理することができた。また、学習の内容の理解に加え、自分の感想や意見も述べることができ、感想文に繋げることができた。

3 記録を整理することで、自分の考えを伝えたい気持ちが高まった。

自分の考えを伝えたいという気持ちが高まってきた。そこで、自己表現として、卒業を見据えた SNS への練習として日記アプリ「DayOne」を活用した。すると TV の話しが中心ではあるが、自分の興味関心のあることを伝えたいので記録するという意識が高まってきた。

○特徴的なエピソード

②-1 文章をまとめ推敲する

これまでは、文字を書くことに時間がかかり、書き直すことも難しかったため、作文に十分に取り

組むことができなかった。「SimpleMind」や「原稿用紙」のアプリを使うことで、「次は走れメロスについて書きたいです。」と作文を書くことを自ら進んで行うことができた。そこで、次に「自分一人で考えてやってみます。」ということだったので、本を読みながら、大きなマップを書いて、自分の考えをまとめることができた（図7）。

その結果、「書くこと」に抵抗がなくなり、日記やLINEの回数が増えて、自分の考えていることを伝えることができるようになった。

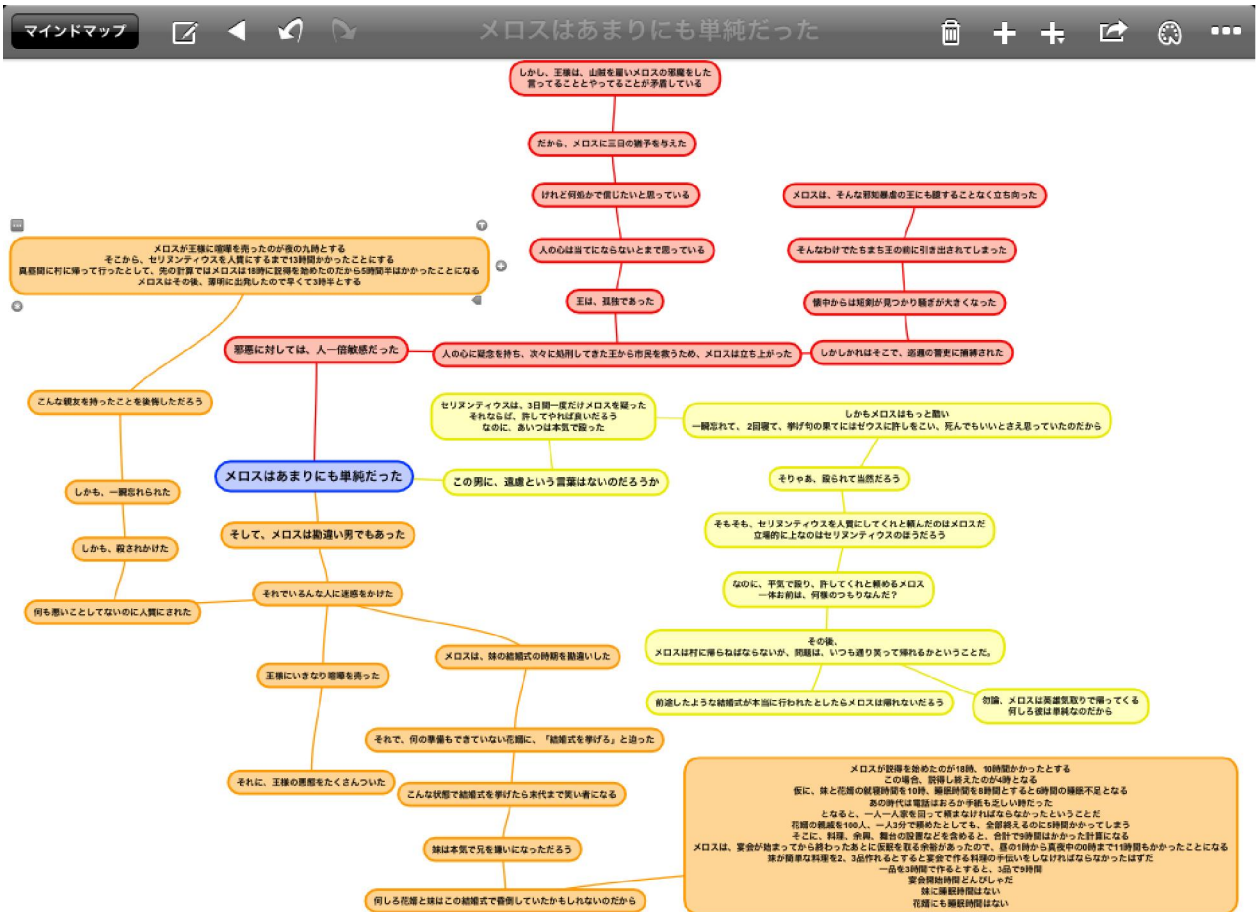


図7 自ら考えて作った「走れメロス」のシンプルマインドのマップ

③ 相手の気持ちを理解し、自分の気持ちを伝える。

イラストや簡単な会話だけのやりとりであった「LINE」も相手の書いていることを読み直し、自分が何を応えたら良いか解ってきた。そして、自分の気持ちも含め、いろいろなことを伝えるようになってきた（図8）。

受け答えがうまくいくことが自信に繋がった。毎日のように「LINE」を使うようになり、その受け答えも相手に合わせてできるようになってきた。

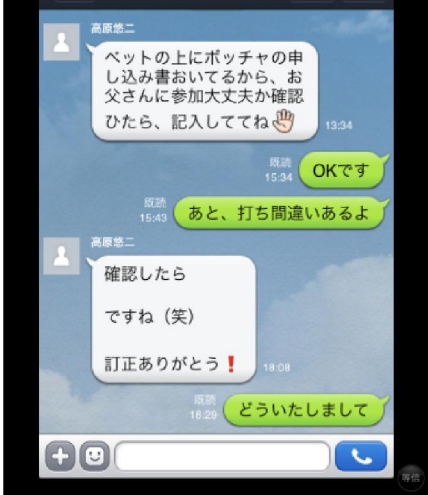


図8 LINEでやりとりができる

③ 相手へ話しをする態度の変化

授業中や話しをするときには、下を向いていて、別のことをしながら話しを聞くことが多かった（写真1）。自分の考えを伝えることができるようになると前を向いて、発表したり、話しをしたりするようになった。

また、行事の事後学習等において、感想を積極的に発表できるようになった。感想の内容も自分の考えを入れることができた。



写真1 自分の意見を発表

○その他のエピソード

感想文の取り組み以降、iPadをメモやノート代わりに活用している（写真2、3）。そこで、対象生徒に、「どうしてiPadを用いたら、こんなに自分の考え等を上手に言うことができるようになったのか？」と質問すると「今までは板書したことを見て、書くだけで精一杯で、書いている間に内容を忘れていた。」ということであった。特に漢字に関しては、一字一字丁寧に書くために時間もかかっていた。中学部1年時には、1時間でプリント2、3枚を解くことができていたが、3年になるとプリント半分を書くのがやっとになっていた。これは、だんだんと難しくなる漢字に対してより時間がかかってしまうことで、書いた文章の内容について考えることを難しくさせていたということであった。

その後、記録したことを読み返し、取捨選択しながらコピーアンドペーストで、作文を書くことができるようになった。作文を書くことができると、国語の授業が楽しくなったようで、自ら「これについて学習しましょう。」とやる気にも繋がることができた。



写真2 板書をiPadに写している

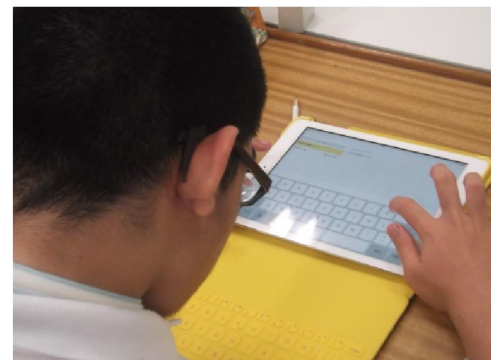


写真3 メモ機能の使用